

週刊新社会

2月18日



2020年号外
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 150円 42円
発行所：新社会党 <http://www.sinsyakai.or.jp/>
E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

「週刊新社会」購読見
込み者をご紹介下さい

東武野田線全線で急行運行開始へ 3月ダイヤ改正で終電繰り下げも

東武鉄道が3月14日にダイヤ改正し、アーバンパークライン（野田線）の大宮・船橋間で急行運転がはじまる。また、他社線との接続駅の終電を繰り下げる。

急行運転は現在92分かかっている大宮・船橋間は最短76分となる。日中は毎時2本程度の運行で柏駅での乗り換えなし。

柏・船橋間では朝ラッシュ及び夕・夜間ラッシュ時に毎時2本走らせ、現在29分ないし30分かかる所要時間が最短で20分もしくは19分に短縮される。

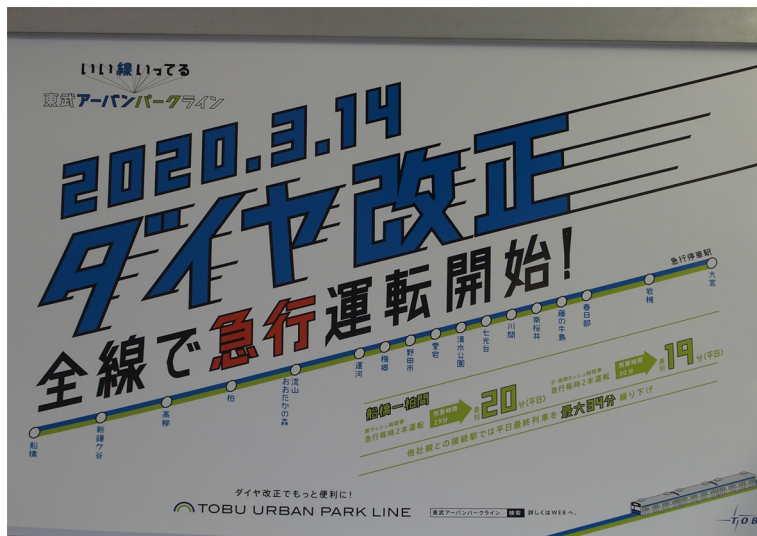
ただし急行運転も春日部・運河間は単線のため各駅停車となり、野田市民にとってはどこでも乗れ

て便利だが、その分急行効果が損なわれる。

その区間を除く急行停車駅は、大宮、岩槻、春日部、運河、流山おおたかの森、柏、高柳、新鎌ヶ谷、船橋となる。

さらに区間急行が新設され、平日朝・夕と土休日の朝・夕夜間の大宮～柏間において、運河～柏間各駅の列車本数確保が図られる。

有料の特急アーバンパークライナーが平日に限り一日一便だが、柏発23:17・春日部着23:57で運行される。平日の浅草21:30発の特急アーバンパークライナー3号野田市駅行きは柏まで延長される。また、他社線との接続駅で



の終電時間は柏発七光台行きで、現在0時37分が0時50分に繰り下げられるなど、表1のようになり、都心等からの帰りにゆとりができる。

ただ、清水公園～梅郷間では連続立体交差化事業中だが、複線化は行われない。そのため東武鉄道はこの区間の複線化を放棄したと思われる。そのため今回の逆井～六実間複線化は野田線最後の複線化となり、春日部～運河間の複線化はないと見られている。

表2 3月議会日程案

期日	開議予定時刻	会議予定	主な会議内容
3日・火	10時	本会議(開会)	会期の決定、議案上程、市政一般報告
10日・火	10時	本会議	議案質疑、委員会付託
11日・水	10時	本会議	一般質問
12日・木	10時		
13日・金	10時		
16日・月	未定	常任委員会	議案等の審査
17日・火			
18日・水	未定	予算審査特別委員会	令和2年度各会計予算の審査
19日・木			
23日・月			
26日・木	10時	本会議(閉会)	委員長報告、質疑、討論、採決

表1 各駅終電繰り下げ(野田市民関係)

駅名(行先)	現行	改正後
大宮(七光台行き)	23:55 発	0:23 発
流山おおたかの森(七光台行き)	0:44 発	0:56 発
柏(七光台行き)	0:37 発	0:50 発
船橋(柏行き)	23:59 発	0:32 発

船橋発柏行き最終は柏から野田方面には接続しない。

非公開だった道の駅資料が公開される 用地取得先行に疑問

非公開とされていた道の駅整備検討委員会の資料が、おさなみ前議員の文書開示請求をきっかけに、用地選定部分を除いてホームページ上に公開された。

そのため、本号外で予定していた学校給食の有機食材記事を差し替えた。それは整備検討委員会が基本的な諸課題の解決や計画策定前に、用地選定を進めようとしていることを 3 月議会で議論してもらったためだ。

検討委員会の委員は道の駅経験者や大学教授、市内商工業や農協関係者、副市長（会長）など 16 名で構成されている。

今回公開されたのは昨年 11 月に行われた第 2 回の会議資料で、そこで検討されたのは、①道の駅の候補地選定の考え方（一部非公開）、②ニーズ調査の方法、③整備コンセプト、④今後の検討スケジュール。

問題はニーズ調査や基本計画策定前に用地選定の議論に入ってお

り、今年度中に面積などの要件に見合う候補地の抽出を行う。その後 20 年度中に選定される。

他の調査は今年度から 20 年度初めにかけて道の駅にかかわると思われる団体・個人との意見交換、及び地域活動団体アンケートが行われる。6 月の市長選挙では鈴木市長は公約に入れて民意を問う形をつくるだろう。農業者アンケートも行われる。

基本計画は 20 年度から 21 年度にかけてつくり、パブリックコメントを経て 21 年度中にできあがる予定だ。

コンサルタントから出されたと思われる「整備コンセプト」によると、野田市の道の駅整備目的は、「休憩」「情報発信」「地域連携」の 3 つの基本機能に加え、「防災拠点」「自然再生拠点」として、「次世代に『野田市の魅力』を継承し、『防災』や『地域活性化』につながる拠点として活用すること」とある。

その後に野田市の「強みと弱み」が列挙され、「道の駅のコンセプトとターゲット」と続く。

このような状況の中でも桜を見る会をはじめ、政権側がまともに答えられないなど政治は機能不全となっている。その正常化には安倍首相の退陣が不可欠だ。政治を正さない限りツケのすべては勤労諸階層に押しつけられる。庶民生活の安心と安定をまず回復させなければ悪循環を断ち切れない。

GDP マイナス！消費税打撃で景気低迷へ

内閣府が 17 日発表した昨年 10 ～ 12 月期の GDP 速報値は、実質で前期比 1.6% 減、年率換算では

6.3% 減となった。本紙一面にあるように黒田日銀総裁が言及したとおりになった。

年率での低下は 14 年の 4 ～ 6 月期の 7.4% 減以来の大きさ。当てもそうだが、今回も減少の主因は消費税増税だ。特に今回は景気が減退する中での税率アップだけに影響が長期化しかねない。

97 年に消費税率を 5% に上げて以来、経済はほぼゼロ成長。それでも企業の取り分は増え続け、その分労働者の賃金が下がり、格差と貧困増大のきっかけをつくった。

今回の低下は大型台風や暖冬の影響もあるだろうが、それに続いてコロナウイルス、6 月にキャッシュレス還元が終わり、オリンピックが 8 月に、パラリンピックも 9 月上旬に終了と続く。米中の経済競争やイギリスの EU 離脱と、景気低迷の基盤的要因はなくなる。

渡良瀬遊水地の人工巢塔で営巣しているコウノトリ。撮影したのは佐倉市選出の前県議、



大野博美さん。おそらく野田市が 2016 年に放鳥した雄のヒカルと思われる。コウノトリはだんだんと野田市の周辺に戻ってきているが、課題は乏しくなる飼育財源と、コウノトリを生かすきれいな政策の弱さだ。